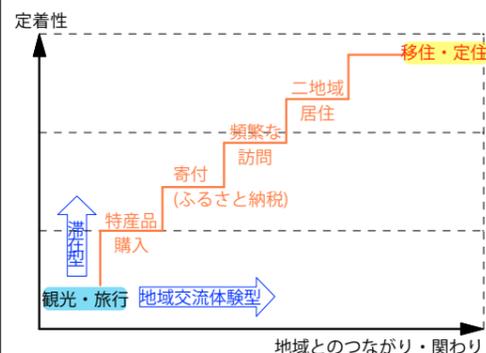


①南阿蘇鉄道沿線地域のまちづくり戦略としての観光拠点化について まちづくり戦略の柱である定住・観光の視点からの創造的復興の提案

■「高森町サポーター」を
町外に増やす→移住・定住へ

高森観光サイト内の高森レターで町の情報発信を担っている「高森町サポーター」。新たに定住・移住を目的とした人を呼び込むために、高森町外でサポーターの創出を目指します。

移住・定住はハードルが高く、一過性の交流では長続きしない面もあります。そこで、町外のサポーターは情報発信だけでなく、観光、特産品購入、ふるさと納税など離れていても気軽に高森町に関わりを持ってもらい、**段階的に高森町との関係を深めて**もらいたいと考えます。その結果として、移住・定住する人が現れるような仕組みを提案します。



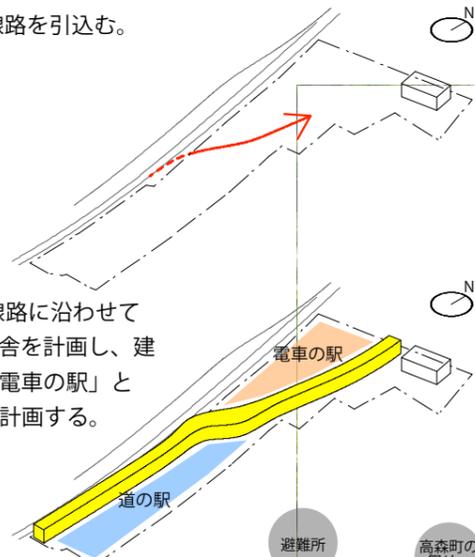
■高森駅ならではのトロッコの駅

水の豊かさ、草原、根子岳の眺望…高森町にはたくさんの観光資源がありますが、阿蘇五岳を囲む地域の中で、高森駅にしかない個性は「**トロッコの起終点駅**」だということです。その利点を活かし、トロッコを全面に押し出した施設にすることで、他の地域・駅にはない「**高森町ならではの駅**」を目指します。



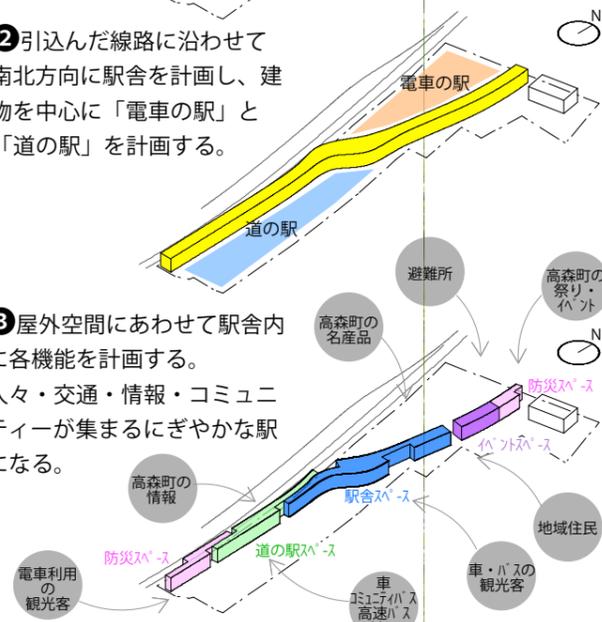
■トロッコを敷地内に引込んで、駅と公園を一体に。高森サポーター・観光客・地域住民・車・バス・情報…全てが集まる駅に

①敷地内に線路を引込む。



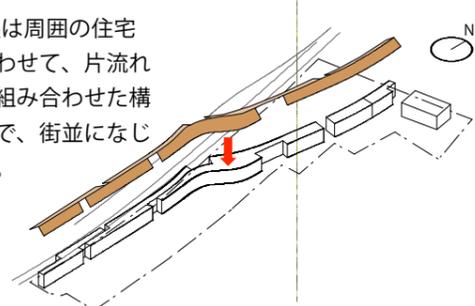
人々・交通・情報・コミュニティが集まる、コンパクトシティのようにぎやかな駅を目指します。大きな屋根の下には、トロッコの駅に加え、道の駅、バス停、イベントスペース機能などを設け、さらに町の情報コーナーも計画します。

②引込んだ線路に沿わせて南北方向に駅舎を計画し、建物を中心に「電車の駅」と「道の駅」を計画する。



③屋外空間にあわせて駅舎内に各機能を計画する。人々・交通・情報・コミュニティが集まるにぎやかな駅になる。

④駅舎の屋根は周囲の住宅スケールにあわせて、片流れと切妻屋根を組み合わせた構成にすることで、街並になじむ建物となる。



駅ホームをみる。木架構の屋根が線路に沿って延びている。トロッコが発進し公園内の林を抜けると、阿蘇の広大な景色が広がる。

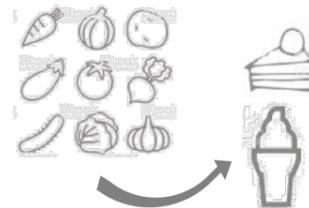
■高森駅の未来像 (10年後、20年後……の高森駅)

高森駅に様々な人・ものが集まることにより、駅は進化を続けます。集まる器をしっかりとつくりこむことで、その後の運営がスムーズに進むように考えます。



コミュニティバスを利用した観光ルート情報を明快に揭示することで、バス利用観光客の新たな拠点として活躍。

未来像 2 :



道の駅で販売する高森名産の有機野菜など地場産の商品が名物となり、駅自体が一つの目的地となり観光名所として発展。

未来像 3 :



軒下空間を利用したマルシェの開催や、炊事スペースを使った炊き出しイベントを活発に開催。日常的に仮設テントや非常用設備を利用することで、非常時の備えにもなります。

※様式8は、A3横使いとし、最大5枚以内とします。

②南阿蘇鉄道の起終点となる「高森駅」の防災拠点化 駅舎及び駅周辺広場における大規模災害を想定した防災拠点の考え方

■高森駅の防災拠点としてのポテンシャル

高森駅の立地は、各ハザードマップのエリア外となっており、防災拠点としても恵まれた立地です。現在ある高森町の指定避難所（高森中学校、高森町観光交流センター等）は土砂災害警戒区域であるため、他の避難所が稼働出来なくなってしまう場合の備えとしての設備設置が必須と考えます。



■日常的に利用する駅→安心できる避難所

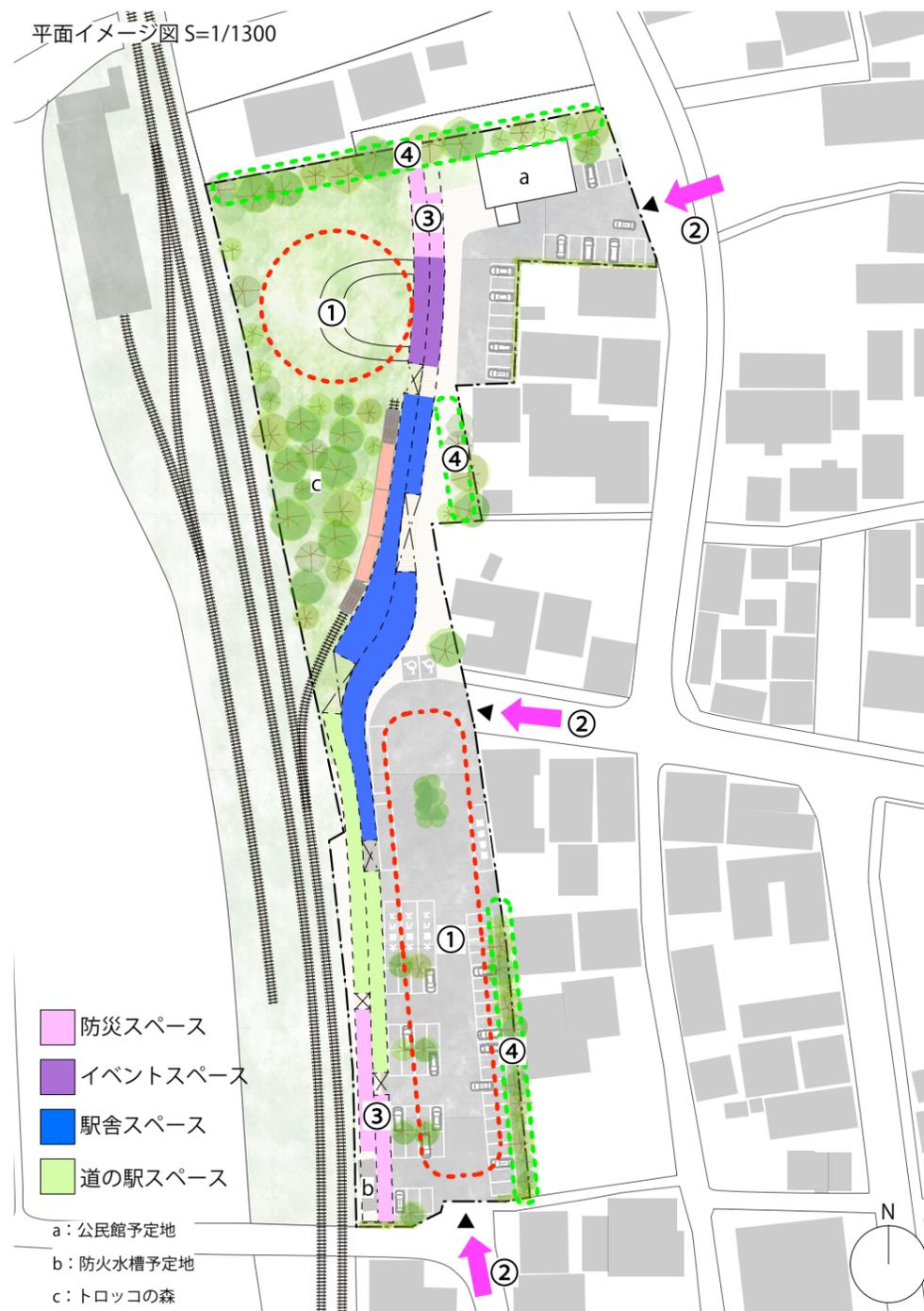
高森駅を日常的に利用してもらい親しみを持ってもらうことで、災害時にも安心して滞在できる拠点を目指します。

また、観光客に向けても「高森駅に行けば大丈夫（情報がある、人がいる）」と思ってもらえるように、すべての情報が集まっているということをアピールすることで、災害時に自然と人が集まる施設となるようにします。



■高森駅→高森防災ステーション

日常的に交通結節点として稼働する駅を、災害時にも人が集まる避難所として安心できる駅に。高森駅を「高森防災ステーション」としてダブルミーニングを持たせ、新たなモデルとなるような駅を目指します。



①大きな広場

災害時にテントや仮設風呂などを設置できる場所として、大きな広場を計画します。広場に隣接して炊事スペースなどを計画することで、日常はイベントなどで利用することもでき、災害時の備えも自然と行えるようにします。



②様々な交通でアクセス可能にする

駐車場を南北に分けて配置したことで敷地にアクセス出来るルートを増やし、道路が不通になった場合に孤立してしまう可能性を減らします。また、ヘリポートにもなる広場も検討したいと考えています。

③指定避難所（高森中学校、高森観光交流センター等）には無い機能を補完する

今ある指定避難所で不足している機能を積極的に採用したいと考えています。（非常電源付きソーラー街路灯、女性用更衣室、授乳室、洋式トイレ、ペット用シェルター等）その検討には地域住民との「災害リスクコミュニケーションワークショップ」により検討したいと思えます。

④延焼防止になる樹木で施設を守る

隣接建物との境界には火災の拡大を阻止したり、延焼速度を遅くするといった効果を持つ防火林を配置し、災害時にも安全な施設となるようにします。

⑤防災拠点としての構造計画

地場産の南郷松等を使った「木質の屋根」を計画します。屋根を支持する構造は、木の柱に加え、鉄骨やRCの壁や柱をバランス良く配置することで、開放性の高い空間を確保しつつも耐震性を持たせ、防災拠点として相応しい構造計画を検討します。また将来の改修などにも容易に対応出来るように、シンプルな架構を目指します。

※様式8は、A3横使いとし、最大5枚以内とします。

③町の玄関口としての駅舎及び周辺整備 町民の生活を支え、まちの元気を生み出す交流拠点の考え方

①メインストリートの始点に建つ、高森町の玄関口

メインエントランスの位置は高森町のシンボルでもあった既存の駅舎の配置を踏襲し、メインストリートの始点に計画します。建物は平屋で計画し高さを抑えることで、エントランス広場から根子岳への眺望を確保したいと考えています。また、建物を南北方向に細長い形状にし、西方向への抜けを大きくすることで、駅のホーム以外でも阿蘇五岳の景観を楽しむことが出来るようになります。さらにピロティ空間を多く設けることで、風の抜け道となり、風の強い高森町の自然となじむ建築となります。



メインエントランスとなるロータリー。背後にトロッコや根子岳が臨める。

②高森町をアピールする情報発信場所

町の情報を掲示できるコーナーをつくります。観光・交通・イベント・求人・空き家・天候など様々な人に向けた情報や、町のSNSのモニター表示等を行い、初めて訪れた人にも興味を持つきっかけをたくさんつくります。

③高森町サポーター案内所で町外と繋がる

町外の高森町サポーターを増やすために「高森町サポーター案内所」を設けます。案内所ではサポーターの興味・関心のあることや役に立てる分野と、高森町で求め

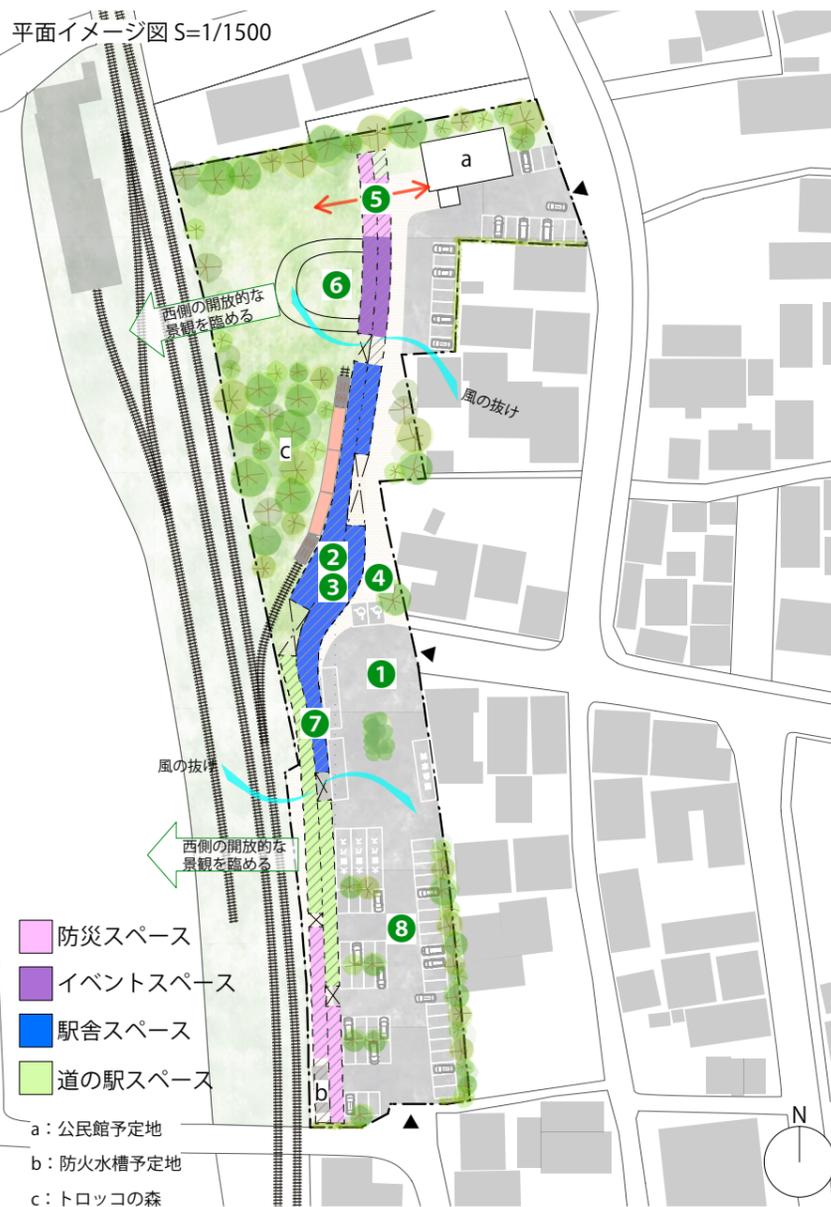
高森町サポーター

地域住民



られていること、この2つを重ね合わせる作業を行います。窓口で「かわりしる」の発見を促し、地域の人とつなぐコミュニティとしての役割を担います。高森町のNPO法人「TAKAraMORI」等にも協力してもらいながら日本ブランディング協会がとりまとめ、継続的に交流を促進する仕組みを作っていきます。

平面イメージ図 S=1/1500



④高森町ならではの植栽計画、阿蘇石・枕木を用いた歩道

敷地内にも樹木は高森町の自然の山中にあるもの(コナラ、クヌギ、リョウブ、ソゴ、マユミなど)や、高森町の町木であるヤマザクラ等を中心に選定します。歩道には舗装のアクセントとして枕木や阿蘇石など地場産材を使い、親しみを持って仕上を検討します。南阿蘇鉄道の枕木オーナー制度のような取組みも検討したいと思っています。



⑤公民館と広場を繋ぐピロティ空間

新設される公民館の前にはピロティ空間を隣接させて、広場と一体利用できるようにします。日常は地域のイベント等で利用でき、さらに災害時には一つの避難所として利用できます。

⑥屋根のある屋外ステージとカルデラ広場

高森町の祭り・イベントなどを開催できる、屋根のあるステージをつくります。観客席スペースは広場をすり鉢状にして形成することで、普段は子ども達が走り回ることができる「カルデラ広場」となります。同時にステージ部分は、駅舎などからフラットに繋がるピロティ空間となり、様々な用途に使うことが可能です。ステージ裏を舗装された駐車スペースとすることで、大規模なイベント時にはバックステージとして利用出来るようにしました。



カルデラ広場からステージをみる。右側にはトロッコのホームが続く。

⑦屋根のある駅、バス停、タクシー乗り場

電車、トロッコ、コミュニティバス、高速バス、タクシー、車のために屋根のかかった停留所を計画します。雨や日差しなど天候に関係なく、スムーズな乗り換えを可能にします。待合いの時間にも他のコーナーで寛いだり出来ることで、自然と町の情報などに触れ合うことができるきっかけを作ります。

⑧ゆとりある車動線、歩者分離された安心・安全な駅

既存のロータリーから、大型バスも旋回可能なロータリー空間へと作り替え、車やバスで訪れる観光客の受け入れを可能にします。駐車場はゆとりある寸法で計画し、植栽を配置することで、高森町の豊かな景観にやさしい計画とします。また、歩行空間は完全な歩者分離のゾーニングとし、安心・安全な駅を目指します。



業務実績：道の駅阿蘇

※様式8は、A3横使いとし、最大5枚以内とします。

④「みんなで考えるまちづくり」を実現するための手法 ワークショップ等、透明性を高め、広く町民の意見を取り入れるための具体的な手法の提案

■まちづくりのプロがまとめる駅づくり

まちづくりのプロである、佐藤真一／バリュー・クリエイター（福岡県在住）と共同して、地域住民のみなさんと行うまちづくりチームをとりまとめます。

理事を務める
「地域ブランディング協会」
も積極的に活用します！

さとう しんいち
佐藤 真一
バリュー・クリエイター



- 1990年 リクルート入社
- 2002年 旅行情報事業（九州）に配属、営業統括責任者
- 2004年 旅行情報誌『九州じゃらん』『おとなのいい旅』編集長を歴任
- 2006年 結婚情報誌『ゼクシィ福岡・佐賀版、大分版、熊本版』などを新創刊
- 2006年 株式会社バリュー・クリエーション・サービス起業、代表取締役役に就任兼務する役職等
- 2006年 博多情緒めぐりプロデューサーに就任
- 2006年 NEXCO西日本 QSC委員に就任
- 2007年 社団法人 日田市観光協会 事務局長に就任
- 2008年 中小企業庁「観光資源」活用事業の促進に向けた検討会委員に就任
- 2009年 味のまち鹿児島づくり協議会プロデューサーに就任
- 2010年 西日本新聞社 客員プロデューサーに就任
- 2011年 社団法人 天草宝島観光協会 アドバイザーに就任
- 2012年 観光庁地域の観光資源の魅力を活かした顧客満足型旅行商品推進事業有識者委員に就任
- 2012年 大分県 ツーリズム戦略推進会議 戦略策定委員に就任
- 2012年 広島県&愛媛県「瀬戸内しまのわ2014」プロデューサーに就任
- 2015年 経済産業省「ふるさと名物発掘・連携促進事業The Wonder 500」認定アドバイザーに就任
- 2015年 一般社団法人地域ブランディング協会理事就任

①調査、基本計画策定

基本計画の策定や地域のマーケティング調査作業を行います。また、現地視察を行い、地域に埋もれた価値ある資源を見つけ出します。調査によりみえてきたデータから、高森町に足りないものを読み解きます。それらの段階を経て、町に必要な検討項目を提案をします。



隠れた人材はいないかな？

②ワークショップ

ワークショップは地域ブランディング協会主催で開催し、相互のやりとりがスムーズに進むようにファシリテーターを務めます。また、高森町のみなさんと考えるまちづくりを実現するために下欄のワークショップを提案します。

業務実績：昭和子ども園ワークショップの様子



学校法人昭和女子大学附属こども園の計画。0～5歳までのこども達が生活する空間になるため、運営側やこども達と何回もワークショップを行い、計画を練り上げていきました。
(2017年こども環境学会賞デザイン奨励賞 受賞)

③企画、監修

各案内所、商業スペース、ギャラリー、カフェなど、場づくりの提案をします。また、土地の食材を活かした食品開発や、地域の魅力を発信するイベントや催事の提案・プロデュースをお手伝いします。

業務実績：博覧会プロデュース（瀬戸内しまのわ）



瀬戸内海国立公園指定80周年と瀬戸内しまなみ海道開通15周年を記念して、2014年3月21日から10月26日まで、広島県と愛媛県の沿岸部および島しょ地域で開催された博覧会。「島の輪がつながる。人の和でつなげる。」をコンセプトに、地域やそこに暮らす人と訪れる人をつなぎ、瀬戸内独自の文化や魅力を発信するイベントを開催した。ここで生まれた事業は会期終了後も地域に根付き、まちづくりに生かされている。(2014年グッドデザイン・地域づくりデザイン賞受賞)

④情報発信・観光客対応

地域が発信したい情報を地域ブランディング協会を立ち上げた雑誌「Discover Japan」や、様々なwebサイトにて紹介します。高森町の行事やイベントの告知、プロジェクトの進行状況など、目的に応じた情報発信が可能です。



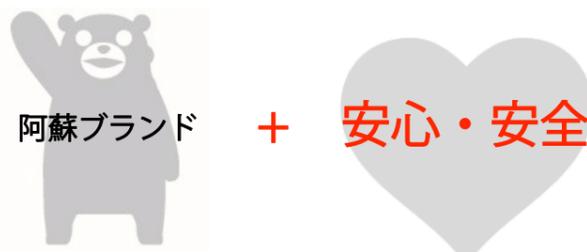
また、国内の観光客に加え、外国人観光客の満足度を高めるために、意識づくりや意欲向上に重点をおいたインバウンドの講習会などを行います。

また、施設オープン後も継続して駅舎内に開設する観光案内所の企画・運営のアドバイスを行います。



■ワークショップについて

■地域住民と災害リスクコミュニケーションワークショップ ■高森町のプロとコミュニケーションをとる



高森駅を始め、阿蘇地域の観光地としてのブランドは確立出来ていると思います。ただ、昨今の災害のためこの地域に対しての漠然とした不安が広がっていると考えます。そこで、被災時に欲しかった機能を地域住民のみなさんと考える「災害リスクコミュニケーションワークショップ」を行いたいと思います。「安心・安全」なまちにするためには何が必要かをみなさんと考え、計画に反映したいと思います。また、建物名・広場名などの公募を行い、地域住民のみなさんが愛着を持てるきっかけづくりを積極的に行いたいと考えています。



高森町について学び話し合う

設計チーム

高森町を盛り上げていくためのチームや人々はすでにたくさん存在します。今まで高森町が築いてきた活動やコミュニティも町の資産です。そこに参加させて頂く形をとることで、町が築いてきたものを無駄にしない仕組みをつくりたいです。町を知り尽くしている高森町のプロの方々とのコミュニケーションを積極的にとり、町について学びながら、第三者として何が必要なのかを提案し、話し合っていきたいと考えます。今あるコミュニティを積極的に活かすことで、駅完成後もスムーズに稼働していける仕組みを目指します。

■高森町の未来を支えるこども達とつくる



高森町のこども達が、高森駅に愛着を持てるようなワークショップを行ないます。
(例：どんぐりを植え、みんなで森を育てるワークショップ)
町の未来を支えるこども達に記憶に残るような経験をしてもらうことで、将来も住み続けたいと感じたり、定期的に里帰りしたくなるような町になることを期待します。

※様式8は、A3横使いとし、最大5枚以内とします。

⑤ユニバーサルデザイン・環境・省エネ・コスト バリアフリー・ユニバーサルデザイン、環境負荷の低減に配慮し、ライフサイクルコストの削減を図ることのできる施設整備の考え方

■バリアフリー・ユニバーサルデザイン

- ・駐車場～道の駅～高森駅～カルデラ広場への動線の明快さだけでなく、施設全体を段差のない**バリアフリーデザイン**とします。幅広い年代の人々が気軽に安全に利用出来る施設を計画します。
- ・雨、風から利用者を守る軒や、**歩車分離を考慮したロータリー**を計画し、事故がおこらない利用者に優しい安全、安心な施設を目指します。
- ・死角がなく、目視できることで**フレキシブルで簡易なセキュリティシステムで管理**することが出来ます。安心で誰もが施設に入りやすく、親密感のある地域の拠点となります。
- ・地産産の南郷檜などを使った木の家具や落ち着いた色調の内装、**木の構造体からの木の匂い**など、リラックスできる空間に配慮し、人が自然に集う優しい空間を目指します。
- ・誘目性が高く分かりやすいサイン計画、受付カウンターやサインが見つけやすいエントランス空間など**利便性に配慮した分かり易い計画**を目指します。
- ・**インバウンドのお客様にも分かり易いピクトサイン**をメインにインフォメーションなどを設置し、様々な国の方々が利用しやすい施設を目指します。

木質家具イメージ



サイン計画イメージ



■環境負荷の低減

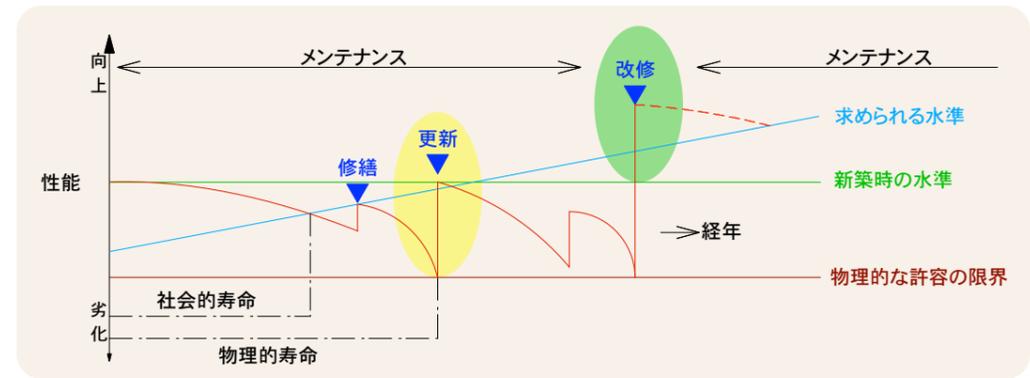
- ・「自然の恵みの活用」を考慮した設備を設置します。
- ・緊急時にも電気が使用出来る様ソーラーパネルを設置します。
- ・通常時は電気のランニングコスト低減に寄与します。
- ・緊急時には非常用のコンセントを使用する事が出来停電時でも照明の使用が可能なソーラー街路灯(非常電源付き)を設置します。
- ・雨水貯留槽を設置し、植栽への散水、中水の利用ができるようにします。
- ・風の強い高森町の特徴を生かして風力発電を設置します。

⇒これらの設備を設置する事で、高森町の未来を担っていく子供達に**再生可能エネルギーの学習の場**としても機能するようになります。

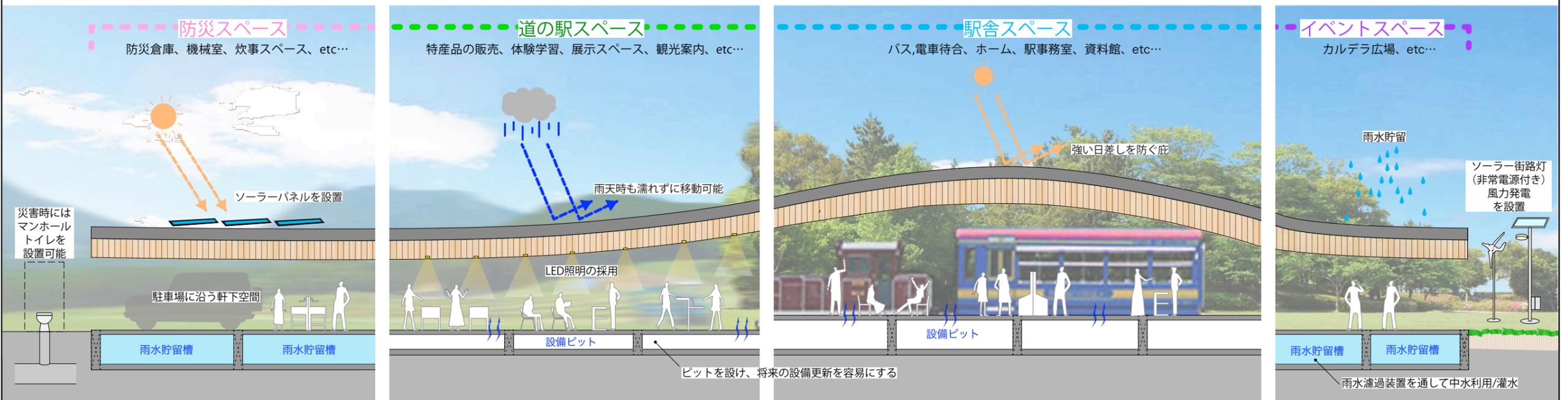


■ライフサイクルコストの低減を考慮した施設づくり

- ・LCC構成の分類・把握に基づき、これまでの経験と実績から有効な低減手法を提案し、自然エネルギーの利用にあたっては、高森町の自然環境と、長い間培ってきた風土の伝統的建築を的確に分析するところから始めます。「**負荷を低減させる建築の手法**」、「**自然の恵みの活用**」、「**高効率な設備手法**」により快適な環境を合理的かつ経済的に構築します。
- ・木造建築では実際に高森町に現存する社寺建築の様に高森町の気候風土、雨、風から建物をいかに長持ちさせるかを考え、メンテナンスし易い設計の工夫を行う事で木造でありながらも長寿命化を実現します。
- ・またコンクリート造や鉄骨造では部分的な構造改修はかなり難しいですが、木造は部分的な構造材の更新がコンクリート造や鉄骨造に比べ地元の大工さんの手で容易に出来るので、こまめな更新をおこなっていく事で、時間を経ても安全、安心な施設となります。



■断面イメージ



※様式8は、A3横使いとし、最大5枚以内とします。